

2011.3.11.大地震 大津波を語り継ぐために

—声なきものの声を聴き 形なきものの形を刻む—

主催 みやぎ民話の会

後援 南三陸町・南三陸町教育委員会・宮城県・宮城県教育委員会

と き 2011年8月21日(日)～22日(月)

ところ 南三陸町 ホテル 観洋
986-0766 宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17
TEL 0226-46-2442

参加費 宿泊 15,000円 (一泊3食の代金で2日目の昼食代を含みます)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ みやぎ民話の学校日程 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

1日目◆8月21日(日)

*専用バスで仙台駅から南三陸町に向かい、津波被害の大きかった志津川地区を経て会場へ。

受付 12:30～13:30

開校式 13:30～14:00

黙祷

開校の挨拶 第7回みやぎ民話の学校を開くにあたって

みやぎ民話の会顧問 小野 和子

第1部 基調講演「津波と語り」 14:00～15:00

講師 リアス・アーク美術館副館長 川島 秀一氏

..... 休憩

第2部「津波を語る」 15:15～18:00

- 「手揚げひとつで避難して」 相馬郡新地町 小野 トメヨさん (大正13年生)
- 「孫のひとつで二階へ」 亘理郡山元町 庄司 アイさん (昭和9年生)
- 「手を振って妻は・・・」 名取市関上 鈴木 善雄さん (大正15年生)
- 「家も田圃も畑も海水に」 塩釜市寒風沢島 土見 寿郎さん (大正14年生)
- 「津波に追いかけてられて裏山へ」 本吉郡南三陸町 高橋 武子さん (昭和13年生)
- 「来ないはずのところへ津波が」 本吉郡南三陸町 仲松 敏子さん (昭和17年生)

夕食・懇親会 19:00～20:30

語りっこの時間 21:00～

地元の皆さんと参加された皆さんとで民話を語りあいましょう。

2日目◆8月22日(月)

朝食 7:00～8:00

避難所での民話語り 9:00～11:00

ホテル観洋に避難された方と交流し、みんなで民話を語りましよう。

閉校式 11:00～11:30

*終了後ホテルで昼食の後、専用バスにて13:00に出発、津波被害のあった南三陸町戸倉地区などを経て仙台駅へ。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 参加申し込みについて ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

ホテル観洋は被災された方々の避難所にもなっています。
現在、給水車による水の利用ですが7月中旬には水道復旧の予定です。

申込方法 同封の「払込取扱票」、もしくは郵便局の「払込取扱票」に下記口座番号と加入者名と参加人数に応じた参加費の合計金額を記入し、所定の金額を郵便局で払い込んで下さい。

口座番号 02270-3-41497 加入者名 みやぎ民話の学校

*宿泊の部屋割についてはこちらで決めさせていただきます。なお、ご希望がある場合は、その旨を「通信欄」にご記入下さい。

【お願い】 2日目の避難所での民話語りの時間に、ぜひご参加ください。語ってもいいという方は「通信欄」にご記入下さい。お願いいたします。

申込締切 7月31日

*応募者が定員に達した時点で締め切らせていただきますので、お早めにお申し込み下さい。

定員 120名

受付通知 払込通知を受け取りましたら折り返し受領証を兼ねた参加証のハガキをお送りしますので、当日持参し受付にてお示し下さい。

参加取消 分かり次第ご連絡下さい。手数料を差し引いた金額を返却いたします。なお、8月15日以降の取り消しの場合は、参加日の返却は出来ませんのでご了承下さい。

問合せ先 「みやぎ民話の学校」に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

長須賀 直子 TEL 022-392-7018

河井 隆博 TEL 090-9423-3919

E-mail nishiki-sunrise@st.cat-v.ne.jp

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ホテル観洋までの交通の御案内 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

【お願い】 仙台から会場までは専用バスをご利用下さい。

専用バス 仙台市内から南三陸町までのJRおよび路線バスは現在不通です。会場であるホテル観洋への仙台市内からの交通手段は、ホテルが用意した専用バスをご利用いただくこととなります。往復1,000円を別途徴収いたします。

*新幹線中央改札口にみやぎ民話の会のスタッフが待機しており、バス乗車への案内をいたします。中央札口から仙台駅東口のバス停までの移動には10分余りかかります。

*所要時間は約2時間ほどかかります。途中にトイレ休憩をもうけ、行きは津波被災地の南三陸町志津川地区を廻ってホテルへ向かい、帰りは同戸倉地区を経て仙台駅に戻ります。

*専用バスは宿泊の方のみのご利用になります。

*バスは10時30分に仙台駅東口を出発します。現在、鉄道各線は臨時ダイヤで運行していますので、今後ダイヤの変更が考えられます。それぞれ列車の時刻をご確認のうえ、弁当購入などの時間の余裕を見込んで、遅れないようにお出かけ下さい。

*1日目(8月21日)の昼食は、各自ご持参の上バスの中で済ませるようにして下さい。

自家用車 三陸自動車道の桃生津山ICを下り、国道45号線を東進して約20分です。

「第七回みやぎ民話の学校」を開くにあたって

一年おきに（ときには二年おきに）開いてきた「みやぎ民話の学校」も七回目を数え、今年は、当初県南地区での開催を計画していました。県南の三つの地域、(1)伊具郡丸森町、(2)角田市、(3)亶理郡山元町と福島県相馬郡新地町、この三地域を中心に、そこにお住まいの語り手から民話を聴き、その地で生れた「民話」サークルの活動に学び、これからの語りの方向をもとに考えたいと思っていました。そして、昨年の夏から準備にかかり、そろそろ案内書を作成しようかというときでした。

三月十一日、大震災に襲われました。宮城県北東部の海岸沿いの大きな被害はもとより、仙台湾を臨む仙台市をはじめ、多賀城市、名取市、岩沼市、亶理郡亶理町・山元町、隣接する福島県相馬郡新地町など、県南部が蒙った被害も甚大でした。

わたしたちが「学校」のために選んだ三つの地域のうち、山元町・新地町もおそろしい津波にやられ、この地域に住む語り手が二名までも家を流されました。また、語りの会場の一つに選んでいた日本最古の小学校である、新地町の観海堂も根こそぎ海へ持っていかれました。

このような状況の中で「学校」を開くことは難しいと考えて、一度は、中止を取り決めました。しかし、わたしたちを「学校」開催に踏み切らせたのは、被災された語り手の方々から寄せられた言葉でした。形あるものをすべて失った語り手の方々が、「わたしには民話が残っている」といわれ、「生きていく限り、語っていききたい」といわれるのでした。家財産、田畑、なにもかも手から離れた今、身体ゆがかに無形の民話が息づいていると語り、これからの暮らしの「命綱」にするというておられるのです。

胸を揺さぶられました。被災されたみなさんに、わたしたちのほうが勇気づけられ、背中を押されていることに気がつきました。それに応えるためにも、わたしたちは「学校」開催を決めました。

そして、今回の「学校」は、当初の計画を大きく変更し、被災されたみなさんを中心に、その体験を語っていただくことからはじめたいと思いました。過酷な災害に襲われたふるさと宮城県から、わたしたちは何が発信できるのか、どんな方法がとられるべきなのか、なにもかも判然としないままです。が、せめて、そのスタートラインをともに模索し、震災がもたらした苦しみをわずかでも共有させてもらい、そこから、すべてをはじめたい、そんな「学校」にしたいと考えました。

そして、大きな被害を受けた南三陸の地を会場に選びました。宿舎の「ホテル観洋」には、現在もたくさん避難者が身を寄せておられます。この方々との交流も持ちたいと願っています。

基調講演をお願いしました川島秀一さんは、気仙沼で生まれ、気仙沼の海を起点にして民俗探訪をつづけてこられました。このたびの津波で母上をなくされました。大切な資料、そして家をなくされました。わたしたちの願いを受け入れてくださった有り難さを決して忘れません。

被災後の川島さんは、つぎのように述べておられます。

《ただ一つ分かったように思えたのは、三陸の漁師たちは海で生活してきたのではなく、海と生活してきたのではないかということである。海と対等に切り結ぶ関係を持っていないければ、今後もお漁に出かけようとする心意気が生れるはずがない。そのような積極的な生き方に、私自身もう少しだけ賭けてみたい。日はまた暮れてはいないのだから。二〇一一年五月二日 河北新報より》

みやぎ民話の会顧問 小野 和子

「津波を語る」みなさんのご紹介

- | | |
|----------|---------------------------|
| 小野 トメヨさん | 福島県相馬郡新地町にて津波に襲われ、家を失う。 |
| 庄司 アイさん | 亶理郡山元町にて津波に遭い漂流し、家を失う。 |
| 鈴木 善雄さん | 名取市閑上にて津波に襲われ、妻と家を失う。 |
| 土見 寿郎さん | 塩竈市寒風沢島にて津波に襲われ、家と田畑を失う。 |
| 高橋 武子さん | 本吉郡南三陸町にて津波に襲われ、家を失う。 |
| 仲松 敏子さん | 本吉郡南三陸町にて津波に襲われ、一階部分冠水する。 |

基調講演講師 川島 秀一氏 プロフィール

宮城県気仙沼市に生れる。法政大学社会学部卒業。東北大学付属図書館、気仙沼市市史編纂室、気仙沼図書館を経て、現在、リアス・アーク美術館副館長。日本口承文芸学会理事、遠野物語研究所客員研究員などを務める。主な著書として、『ザシキワラシの見えるときー東北の神霊と語りー』（三弥井書店 1999）『漁撈伝承』（法政大学出版局 2003）『憑霊の民俗』（三弥井書店 2003）『カツオ漁』（法政大学出版局 2005）『追込漁』（法政大学出版局 2008）など。